



南大隅町を走ったのは、下仮屋蒼馬さん。(表紙掲載)
 各市町村選考枠として肝付町から選出されての参加。
 中学校の時の恩師に勧められて応募しました。
 南大隅町の第1走者として展望広場からトンネル出口広場までのコースを走り聖火をつなぎました。
 今は鹿屋工業高校2年生で陸上のハードル選手として日々練習に取り組んでいます。
 これからも陸上を続けたいと笑顔で語る姿には、今回の経験で得られた自信が感じられ、今後の活躍への期待が膨らみます。



▲ 聖火を繋ぐ様子



▲ 桜の花を模したトーチ



▲ 家族お手製の横断幕



コロナウイルス感染症拡大の影響による1年前の突然の延期からやっとの思いで迎えた開催日。2人は、まず、出場が決まった時の喜びを語られ、コロナ禍の影響で突然延期になったことへの戸惑い、さらに突然降りかかった先の見えない延期への不安やモチベーション維持の苦悩、そしてなにより、それを乗り越えたからこそ迎えられた当日への大きな喜びを語ってくれました。
 聖火ランナーという大役を終えた二人の口から出たのは、仲間や恩師といった出会いがあったことへの感謝、そして、家族や支えてくれた方々への感謝の言葉でした。
 聖火リレーを通して何を伝えたかったか聞くと一松さんは、「私の走る姿を見て『あんなおじさんでも聖火ランナーになれるんだ。コツコツ努力すれば、夢は叶うんだ。』と思って誰かが頑張るきっかけになればうれしい。」と話してくれました。また、下仮屋さんに将来の夢について聞くと「大学に行っても陸上競技を続けたい。オリンピック出場を目指します。」と話してくれました。
 オリンピックの聖火リレーでは、願いや夢も運び繋がれたようです。

サポートランナーとして走りました

ランナーと一緒に走り、大会を盛り上げるサポートランナーとして肝付町から4人の子供たちが南大隅町を走りました。
 左から坂田 りんさん、馬込 ひなたさん、中窪満ちるさん、又野 颯真さんです。
 1年間の延期を経ての参加でしたが、応募した時よりも成長した力強い走り聖火リレーを盛り上げてくれました。



▲ 佐多岬を目指すサポートランナー